

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
農林部	阿部喜孝	農業振興 普及課	担い手・経 営班	加藤竹雄	0187-63- 6110	新しい果樹産地づくり推進 事業	果樹の取り組みが少ない 仙北地域がぶどうとプ ルーベリーの生産量を増 加し、直売所等での品揃 えも豊富にする。さら には、産地形成への取 組みを図る。	783,123	直営	【ブルーベリー】 ・整枝・剪定講習会 ・先進地視察研修(山形 県) 【ぶどう】 ・生産販売等調査(東京大 田市場他) ・シャインマスカット用カ ラーチャートの作成 ・栽培講習会、巡回	県	ブルーベ リー及び ぶどう生産 者	平成28年4月1日	【ブルーベリー】 ・生産レベルが向上した。 ・加工への取り組み意欲 が向上した。 【ぶどう】 ・販売形態の選択肢が増 加した。 ・栽培技術が向上した。	【ブルーベリー】 ・選果レベルの向上が必要で ある。 ・加工品の開発が求められて いる。 【ぶどう】 ・より効果的な販売方針を検 討する必要がある。 ・栽培技術の向上を継続して いく必要がある。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		
農林部	阿部喜孝	農業振興 普及課	担い手・経 営班	吉川 進太郎	0187-63- 6110	若い新規就農者定着支援 事業	仙北地域は新規就農者数 が全体的に多い地域であ るが、今後、更なる新規就 農者の確保・定着が重要 な課題となっている。管内 若手農業者同士の交流や 販売活動支援を通じて、 新規就農者の確保・定着 体制の強化を図る。	487,981	直営	・有楽町秋田マルシェへの 仙北農近ゼミブース出店 (7月)。 ・管内若手農業者と大曲 農業高校生の県外合同視 察研修の実施(9月)。 ・販促活動用パンフレット 作成(2月)。	県	管内若手 農業者、 大曲農業 高校	平成28年4月1日	・首都圏での販売活動で は、仙北農近ゼミ会員の 作った農産物が首都圏消 費者から高く評価され、自 信に繋がったようであ った。次年度も参加を希望 する声が多く聞かれた。 ・県外企業視察では、宮 城県及び福島県にある最 先端農業技術とICT技術 を組み合わせた大規模園 芸施設を視察し、農業の 持つ様々な可能性を体験 することができた。参加し た大曲農業高校から今後 も管内若手農業者との交 流の場を設けてほしいと の要望が挙げられた。	今後も、首都圏での販売活動 と県外視察研修を行い、若手 農業者においては販売能力 の向上を、大曲農業高校生 においては就農啓発を引き 続き図っていく。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		
総務企画 部	袴田次郎	地域企画 課	企画・観光 振興班	備前俊吾	0187-63- 5114	「匠の技」実演会開催事業	高度で優れた技能を直接 見て学ぶことにより「もの づくり」に対する意欲を喚 起し、産業人材の育成を 図る。	199,652	直営	技能五輪メダリストを招 き、工業系高校生等を対 象とした実演会を実施 ・期日 平成28年9月13日 ・会場 大曲工業高校 ・参加者数 184名	県	県南の工 業系高校 生、大曲 技術専門 校訓練生	平成28年4月1日	一流の技に対する驚きの 感想が多かったほか、仕 事に対する姿勢や社会人 としての心構えなどに感 心する声も多かった。将来 の進路に思いを強めた意 見も多い。	技能五輪メダリストの派遣を 伴う事業については秋田県 職業能力開発協会が実施す ることになったことから、今後 振興局では実施しない。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		
総務企画 部	袴田次郎	地域企画 課	企画・観光 振興班	備前俊吾	0187-63- 5114	おらほの企業見学会開催 事業	管内の小中学生や保護者 などを対象に、管内の優 れた企業・工場を見学す ることにより地元企業への 理解向上と地元定着の促 進を図る。	113,420	直営	小中学生による企業見学 会の実施 ・期日 平成29年1月12日 ・参加者数 30名(保護者 含む) ・見学企業 北光金属工 業(株)田沢湖工場、(株)セ レクトラ	県	小中学生 (保護者含 む)	平成28年4月1日	普段目にすることができな い企業の業務内容に触れ ることができ、地元企業へ の理解が図られた。	小中学生が参加しやすい時 期の開催に留意し、子ども の将来的な地元定着を目指 し引き続き優れた企業・工場 の紹介に努める。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		
総務企画 部	袴田次郎	地域企画 課	企画・観光 振興班	備前俊吾	0187-63- 5114	若者の定着促進事業	若者に対して地元企業の 魅力を知ってもらい、地元 への定着を促進する。	87,987	直営	企業説明会 ①高校3年生対象 開催日 平成28年7月8 日 参加者 企業46社 高校 生165名 ②高校2年生対象 開催日 平成29年2月15 日 参加者 企業34社 高校 生403名	県、市町、ハ ローワーク等	高校生	平成28年4月1日	地元企業が自ら高校生に 対して売り込みを行い、地 元企業への認知度が高 まった。	他地域と比較して地元就職 率が高い状況にあるが、職種 によっては採用出来ない企業 も多いことから、今後も継続 して実施し、地元就職率をさ らに高める必要がある。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び取組方向
総務企画部	袴田次郎	地域企画課	企画・観光振興班	備前俊吾	0187-63-5114	「お土地柄職業」体験プログラム実施事業	移住希望者を対象に伝統的な職業を体験するプログラムを実施し、移住者の増加及び職能の継承を図る。	100,080	直営	2市町における移住体験の際に「陶芸体験」「農業体験」を実施 美郷町:平成28年12月11日 大仙市:平成29年2月12日	県、市町	移住体験者	平成28年4月1日	県外から移住体験に参加された方に地域の魅力を感じてもらうことが出来た。	参加者からの評判は良く、また各市町からも協力を要望されていることから、今後も継続していく。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
福祉環境部	豊島優人	企画福祉課	調整・障害者班	進藤和彦	0187-63-3403	「シニア世代の医療・介護サービス活用術」啓発事業	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことの実現が求められる中、国では「地域包括ケアシステム」の構築を求めている。同システムの構築を推進するには住民の理解が必須であり、医療・介護の制度やサービス内容について普及啓発を図る必要がある。	170,582	直営	地域包括ケアシステムについて理解を深める住民向けセミナー「老いと健康を考える集い」の開催(2月18日) 医療介護多職種連携の会による話題提供、医師等による講演2題、医療・介護等各種相談コーナーの開設 参加者:197名	県	地域住民	平成28年4月1日	アンケートでは訪問医療や在宅介護の実践及び自宅療養の大切さが理解できたとの声が非常に多かった。地域包括ケアシステムの情報提供も解りやすかったとの声が多く、住民の理解も深まり、本事業が地域包括ケアを推進する大きなきっかけとなったと考えられる。	現在、管内市町では地域包括ケアシステムの構築に取り組んでおり、政策上では平成30年4月を目処に介護保険による在宅医療・介護連携推進事業への取り組みを進めることが必要とされている。地域の特性に応じた利用しやすいシステムとするため市町、県、関係団体で協議を加速していく必要がある。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
福祉環境部	豊島優人	健康・予防課	健康・予防班	池田栄子	0187-63-3404	地域感染症対策強化事業	管内でも例年高齢者施設等で集団感染事例が発生していることから、従来の啓発事業に加え、感染管理認定看護師等の人材を活用しながら、より効果的、実践的な対策を推進し、地域の感染症対策の充実強化を図る。	374,043	直営	・感染症対策交流研修会の実施(11月9日、11月14日) ・地域感染症対策実践連絡会の実施(10月3日、1月20日)	県	高齢者施設等関係者、感染管理認定看護師	平成28年4月1日	これまでの感染対策を見直す機会になった。他施設の対応の仕方や方法を学ぶことができてよかった等の声が聞かれ、感染対策の見直し、強化を図ることができた。	施設ごとの感染症に対する意識や取り組みに差が感じられたことから、関係機関の協力を得ながら、今後も施設対策の充実強化に向けた働きかけが必要である。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
総務企画部	袴田次郎	地域企画課	企画・観光振興班	備前俊吾	0187-63-5114	国内外に向けた”秋田らしさ”発信強化事業	交流人口拡大のために、県内外に向けて仙北地域振興局管内の観光情報を発信する。	2,049,289	直営	仙台圏等への売り込みを実施 ・メディア訪問数 延16社 ・TV放映 1回 ・広告出稿 5件 など	県	テレビ局、雑誌社、新聞社等	平成28年4月1日	TV放映(大曲の花火秋の章)、雑誌等への広告掲載、webなどで情報を発信することができた。	今後も時期・内容・費用を精査しながら継続して実施する。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
総務企画部	袴田次郎	地域企画課	企画・観光振興班	備前俊吾	0187-63-5114	あなたの写真で秋田をPR事業	フォトコンテストを実施し、地域の魅力を県内外に向けてPRする。	170,284	直営	高校生によるフォトコンテストの実施 ・応募作品 67点 ・受賞作 優秀賞 4点 優良賞 11点	県	管内高等学校等	平成28年4月1日	優秀賞作品で絵葉書を作成、県外イベントで配布することで秋田県をPRすることが出来た。	「県内外に向けた観光PR」「若者の地元定着」効果があることから、今後も継続して実施する。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
総務企画部	袴田次郎	地域企画課	企画・観光振興班	備前俊吾	0187-63-5114	冬季誘客促進事業	観光客が大きく落ち込む冬季誘客促進のために、旅行代理店等の担当者を対象としたファミツアーを実施する。	121,409	直営	ファミツアーの実施 ・2月10日～11日 上桧木内の紙風船上げ等 参加1社 ・2月15日～16日 六郷のカマクラ等 参加3社	県	旅行代理店・マスメディア等	平成28年4月1日	県外の旅行代理店等の担当者に魅力的な小正月行事等を実際に見て、感じてもらえた。今後の旅行商品づくり等への効果が大きい。	参加者から「魅力的な行事が多いが、県外ではまだまだ知られていない」という意見があることから、秋田の冬の魅力をPRしていく必要がある。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画 部	袴田次郎	地域企画 課	企画・観光 振興班	備前俊吾	0187-63- 5114	県内外で観光・物産をもつ と直接売り込み事業	県内外で仙北地域の観光 と物産を売り込むことで地 域活性化を図る。	1,309,285	直営	県内外で観光物産展を開 催 秋田市1回、仙台市2回、 東京都1回	県、横手市等	観光客等	平成28年4月1日	出店事業者へのアンケ ートでは好評であり、リピ ーターも増えてつある。	今後も仙台圏を中心に売り込 みを継続して実施する。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		
総務企画 部	袴田次郎	地域企画 課	企画・観光 振興班	備前俊吾	0187-63- 5114	広域誘客促進事業	県境を越えて隣接する地 域と協働で誘客に向けた 事業を実施する。	597,240	負担金	冬季誘客促進事業(冬め ぐりキャンペーン)の実施 内容:宿泊券やクーポン 券のプレゼント、特典付き リーフレットの作成等	雫石・田沢湖・ 角館地域誘客 促進事業実行 委員会	観光客	平成28年4月1日	冬めぐりキャンペーンに県 内外から多数の参加が あった。	事業の効果だけでなく、他の 実行委員からの継続要望も 強いことから、今後も継続し て実施する。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		
総務企画 部	袴田次郎	地域企画 課	企画・観光 振興班	備前俊吾	0187-63- 5114	田んぼアートによる景観 づくり事業	内陸線沿線の見所を創出 (田んぼアートを作成)す ることにより同線の乗車促 進を図る。	377,702	委託	地元農家団体の協力を得 ながら、内陸線車窓から 見える場所に田んぼア ートを製作 ・6月1日:田植え ・10月3日:稲刈り	県、地元農家 団体、秋田内 陸縦貫鉄道(株) 等	観光客	平成28年4月1日	秋田内陸縦貫鉄道(株)か らの聞き取りでは「田んぼ アート目当てで乗車する 方が増えてきた(定着しつ つある)」との評価をいた だいている。	内陸線や田んぼアートは、秋 田県有数の観光コンテンツで あることから、地域の商工・観 光・農業団体と協働で継続し て実施する。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		